

開催を間近にして 全国医学生ゼミの経過

第五回全国医学生ゼミナールは、十一月二十一日千葉大学後援の記念講演会及び全教授出席を予定されているC・P・Cをプロローグとして二十四日までの三日間、千葉で開催される。このゼミ活動を開始した本学医学生より組織された実行委員会もその準備に多忙の度を強めて来た。財政面において同窓会委員の大きな援助はもとよりその推進力を強めている。ここに現在までのその進行状況及び本年度ゼミのハウトテーマ「日本の医療制度の諸矛盾について」における一考察点となる「大学病院の問題」とり上げてみよう。これは「医療機関としての大学病院」を第五分科会（医学教育制度）の分科会に助言者となられる前附属院長齊藤十六二内教授に解説して頂いたものである。

医研機関としての 大学病院の問題点

現行の医療法と大学病院運営との関係は、いろいろ方向から、いろいろの点をあげなければならぬ。抽象的ではあつても、根本的な問題についての話し合いもある。しかし、わたくしは現実の面にあらわれた問題を、つぎのように紹介し、この中から、話し合いのテーマを引き出したいと思ふ。

昭和三十三年一月二十日、全国国立大学病院長保険委員会、日本医師会より、健康保険の改正実施（昭三三・七）後、医療機関病院における保険診療の実情、ならびに、改善に関する意見を求められた。そこで、全国国立大学病院長保険委員会は、保険小委員会の結成を、北村包彦委員長名をもつて、武蔵日本医師会長あてに「つぎのように伝えた（昭三三・一・三十一）」

- 一、大学病院が指定医療機関になつた現在においても、医療機関としての大学病院における教育研究の費用は、いづい、文部省において予算措置を講ぜられるべきであるが、現在においては、いまだ計数的にいかんすべきは決まていない。
- 二、大学病院における患者の特殊性については、厚生省から通牒が発せられたが、手術、処置、検査その他について、なお、十分に大学病院の特殊性が周知徹底されるよう希望している。
- 三、大病院の医療機関として

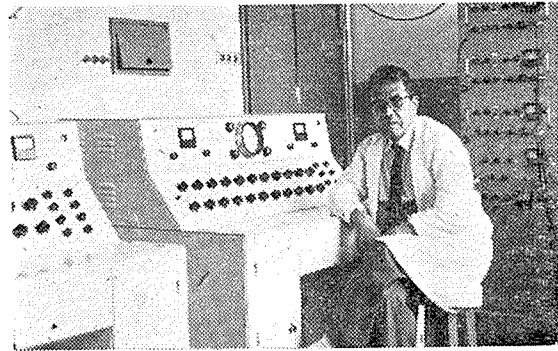
教室めぐり ③ 第一生理学教室の巻

新館の三階、長い廊下に沿つて細菌、薬理、生化学と隣り合つています。独特の歩き方をされる川喜田教授が教室の前を行き来されたり、これまでの矢作で、或いは日曜日も、装飾の独立家屋の教室と違い、色々

電気生理のメツカ

新しい装置、研究室

のに行き合います。研究室は第一より第五まで、すべてエレクトロニクスの研究です。新館は手狭なため、教室にある古い測定器から、膨大な量の図書は新しい教室は入り切らず各研究室に分散して収められてゐる。第三研究室は従来と同じく蛙の実験、第四は微小電極に関するもの、第五は哺乳動物の



タの第二研究室が当教室内に設置されました。解剖、薬理と共ニロックフェラー基金により、装置が揃えら

当教室の近況として更に電気医学研究（低周波医学）の診断治療室が施設されたこと。これは文部省機関研究費によるもので、整形外科、内科との共同研究です。人体実験に用いる最新の医学エレクトロニクスが悉く応用される装置が設備されました。写真はその診断室です。文部省では省の電気医学のセンターとなることを期待しています。目下構成されているこの面の文部省総合研究所の班長は鈴木正夫教授であり、近々その班会議が催され、全国大学より集つた方々に本施設を公開することになっています。

また整形外科の鈴木次郎教授も来年度の整形外科総会には特別講演を担当されるとか、愈々千葉大学の研究が電気医学研究のメツカとなりつつあることは同窓の至りです。（本園記）

【写真は新設の装置を前にする鈴木正夫教授】

演題延べ九十一に 全国医大三十数校参加か

第五回全国医学生ゼミナールは、本学医学部主催で来る十一月廿二日から三日間本学病院、基礎新館の出席の下に行われるシンポジウムで、テーマは「医療制度の諸矛盾について」と決定されている。出席講師として沢田敬義（同愛病院長）、高島京巳（日本医師会特別調査委員会委員長）大河内一男（東京大学経済学部教授）吉田秀

男（法政大学講師）池沢康郎（医学部委員長）の五氏が予定されている。分科会は、本年度から新たに「第一分科会（社会保険制度）」、「第二分科会（労働者の健康）」、「第三分科会（労働者の健康）」、「第四分科会（都市における健康）」、「第五分科会（医学教育）」の五つに分かれて行われる。以上が、現在までの、交渉のあつたところである。これらの中にはいくつかの問題点がある。この問題点について、話し合いができればあつてよい。

一、診療に直接必要な検査は、すべてこれを認めること。

二、検査回数については患者の負担に配慮してこれを認めること。

三、検査回数については患者の負担に配慮してこれを認めること。

四、新しい検査、新しい療法については、甲・乙・丙三案を設ける。

人事異動

- 財政面は千葉市、千葉市、日本医師会、県市医師会の後援を得る。分科会は、本年度から新たに「第一分科会（社会保険制度）」、「第二分科会（労働者の健康）」、「第三分科会（労働者の健康）」、「第四分科会（都市における健康）」、「第五分科会（医学教育）」の五つに分かれて行われる。以上が、現在までの、交渉のあつたところである。これらの中にはいくつかの問題点がある。この問題点について、話し合いができればあつてよい。
- 一、診療に直接必要な検査は、すべてこれを認めること。
- 二、検査回数については患者の負担に配慮してこれを認めること。
- 三、検査回数については患者の負担に配慮してこれを認めること。
- 四、新しい検査、新しい療法については、甲・乙・丙三案を設ける。

MEDICAL & SCIENTIFIC BOOK STORE

（千大医学部学生自治会御指定）

メジカル書院

本店 千葉市亥鼻町28（病院坂）
千葉大学医学部西門前
書店 千葉大学医学部学生会館内
電話千葉（2）0170番
構内 124（呼）

昭和34年度
るのはな同窓会
会員名簿
出来上りました
昭和27年卒迄の方は全員逐次発送中です
1部 250円
なお、昭和28年卒以降の方は希望者により配布致します
誤記、その後の異動については御連絡下さい
千葉大医るのはな同窓会

同窓会員の皆さまへ
全国医学生ゼミ財
政部より

今回の全国医学生ゼミナール開催に当たりましては、各地のるのはな同窓会の絶大な御賛同を得て、特に東京、長野、埼玉、千葉の同窓会の皆様方には、財政的な面で多大の御支援を頂き、着々と目標に近づきつつあることを御報告申し上げます。同窓会に欠けてはならない、学生一同の御礼を申し上げます。なお、学生一同の御礼を申し上げます。なお、学生一同の御礼を申し上げます。

四日の音楽会をもつて、本年度医学部祭も無事、終了いたしました。いつもながら、多大な御援助をいただきました先輩各位に厚く、御礼申し上げます。御陰謀で予定通り展示も進み、三日間にわたり中高等学校の団体観覧をはじめ、多くの方々が、おいで下され、学生一同の御礼を申し上げます。なお、学生一同の御礼を申し上げます。

第五回全国医学生ゼミナール
実行委員会
淵上隆

